

平成 29 年

管理栄養士総合演習

11 月 21 日に管理栄養士総合演習の論文ポスター発表会が開催されました。

この論文ポスター発表会は、1 つのグループ(5 人)につき、1 つの英語論文を渡し、

ポスター形式にまとめて日本語で発表するというものです。

当日、学生がポスターの前に立って、教員や学生から質疑応答が行われました。

管理栄養士総合演習でこのような形式の発表会は、はじめての試みでした。

始まるまではどうなるものか少々心配でしたが、教員からの鋭い質問にも一生懸命答えている学生の姿をみて、

一生懸命準備してきた成果を感じ取ることができました。

おつかれさまでした！





(東田)

第9回活躍する生活栄養学科卒業生からのメッセージ

本学科では、毎年卒業後に活躍している先輩方に訪問してもらい、

在学生にメッセージを送っていただいています。

今回は、大垣市民病院の出島里奈先生と湖南市保健センターの東野幸恵先生にお越しいただきました。

出島先生からは病院での、東野先生からは保健センターでの業務についてお話をいただき、

学生からは仕事のやりがいや現在の職場で働くまでの経緯などについて質問が出ました。

出島先生、東野先生貴重なお話をいただきましてありがとうございました。



(東田)

人間文化セミナー

6月7日に人間文化セミナーが開催されました。

今回は、兵庫県立尼崎総合医療センター 栄養管理部の下浦佳之先生を講師にお迎えし、「JDA-DAT 絆プロジェクト～大規模災害時に 栄養士ができること～」というタイトルでお話をいただきました。

The Japan Dietetic Association-Disaster Assistance Team (JDA-DAT)とは、災害発生地域において栄養に関する支援活動ができる専門的トレーニングを受けた栄養支援チームです。

日本栄養士会災害支援チーム JDA-DAT の統括である下浦先生から、近年日本で起きた災害現場での活動内容や今後の課題などについて お話をいただいた後、実際に災害現場で行う、電気ポットを使った火を使わない調理方法について実演していただきました。





(東田)

管理栄養士国家試験合格発表

3月に行われた第31回管理栄養士国家試験の合格発表が5月9日にありました。

今春の卒業生30名が受験し、全員が合格しました。合格率は100%でした！

(東田)

入学式

4月7日に入学式が行われました。

今年度の生活栄養学科への新入生は32名です。

入学式翌日のオリエンテーション時に、学内で恒例の集合写真を撮影しました。



(東田)

学位記授与式

3月20日に学位記授与式が行われ、生活栄養学科の4回生30名が卒業し、健康栄養部門の博士前期課程3回生名が修了しました。

交流センターホールで大学および大学院の全体の学位記授与式が行われたのち、教室に移動し、学部卒業生は一人ずつ卒業証書を、博士前期課程修了者は学位記(修士号)を受け取りました。

管理栄養士養成課程を最も優秀な成績で卒業する学生に一般社団法人全国栄養士養成施設協会理事長表彰が贈られ、佐藤さんが受賞しました。

生活栄養学科を優秀な成績で卒業する学生に対して生活栄養学科成績優秀者表彰が贈られ、佐藤さん、鈴木さん、片矢さん、樋口さん、筒居さんが受賞しました。



夕方には市内のカフェで謝恩会が開催されました。



4月からの新生活を楽しんでください。
ご卒業おめでとうございます。

(東田)

柴田教授最終講義

2月18日に生活栄養学科の柴田先生による最終講義が行われました。

柴田先生は、1998年に帝国女子大学(当時)から滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科の教授にご就任されました。

柴田先生はトリプトファン-ニコチンアミド代謝経路についての研究に長年従事され、多くの研究論文を公表されました。

また、ビタミンB1をはじめとする水溶性ビタミンの代謝研究にも従事され、ビタミンの新しい栄養評価方法を確立されました。同時に、2005年からは厚生労働省による日本人の食餌摂取基準策定検討会のメンバーとして国の栄養行政にも深く関わってこられました。

この間、学会活動にも精力的に従事され、1983年には、日本ビタミン学会奨励賞、2012年には日本栄養・食糧学会学会賞を受賞、また現在まで、日本トリプトファン研究会会長、日本栄養・食糧学会近畿支部長、日本家政学会関西支部長を始めとして様々な会の要職を歴任されてこられました。

最終講義は「寿命の限界まで若年成人の体力と美を維持するための食生活の提言」と題して、大勢の教職員と卒業生にお話をいただきました。



(東田)

平成 28 年度卒業研究発表審査会

2 月 4 日に平成 28 年度卒業研究発表審査会を開催しました。

生活栄養学科では、4 回生になると 1 年間、研究室に所属し、卒業研究として栄養学の最先端の研究課題に取り組めます。

研究テーマの概要をいくつか紹介します。

- ・食餌がビタミン代謝におよぼす影響を明らかにする
- ・食品成分によるがん細胞増殖抑制メカニズムを明らかにする
- ・アミノ酸代謝調節による脳環境の保護を目指す
- ・誤嚥評価の指標を確立する
- ・肥満者の減量に対する効果的な食事指導方法を探る
- ・妊娠期・授乳期にストレスの少ない栄養食事指導法を確立する
- ・栄養状態が骨格筋の可塑性に及ぼす影響を明らかにする

研究室によって研究テーマが異なるのはもちろんのこと、目的、方法、対象も変わります。

患者、高齢者、授乳婦を対象に質問票を用いた調査を行ったり、食品成分を摂取したヒトのデータを記録したり、遺伝子改変動物を飼育したり、培養細胞中のタンパク質や DNA を測定したりするのです。

さて、今年度の卒業研究発表審査会も交流センター大ホールを会場として使用し、生活栄養学科学生、健康栄養部門の大学院生、生活栄養学科の教職員の計 150 名以上の前で発表を行いました。

パワーポイントを用いた発表の後は、教員や大学院生からの厳しい質疑応答です。

発表を聞いているこちらまで 4 回生の緊張が伝わってきましたが、よい発表と質疑応答が行われました。

年々、発表のレベルが上がっていることを実感しています。



(東田)